

令和7年用ねぎ病害虫防除基準

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発行：J A さ が え 西 村 山
さがえ西村山野菜振興協議会

害虫防除【殺虫剤】

作業	RAC コード	薬 剤 名	使 用 方 法				対 象 病 害 虫						注 意 事 項
			倍 率	散布量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数	アザミ ウマ類	ハモグリ バエ類	ネギコガ	シロイチモ ジヨトウ	ネキリ ムシ類	ネダニ	
育苗期	28 4A	ジュリボフロアブル	200倍	灌注	育苗期後半 ～定植当日	1 回	ネギ ●	ネギ ●			●	●	●登録：タネバエ ペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）当たり0.5L
定植時	1B	ダイアジノン粒剤5	6 kg／10a	全面土壌混和又は 作条土壌混和	は種時又は定植時	2回以内							●登録：コガネムシ類幼虫
	3A	フォース粒剤 [㊞]	9 kg／10a	作条土壌混和	定植時	1 回					●	●	●登録：クロバネキノコバエ類
	4A	スタークル顆粒水溶剤	50倍	灌注	定植前日 ～定植時	1 回	●	●	●	●			●登録：タネバエ ペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約1.5～4L）当たり0.5L
定植時 ～生育期 （株元散布）	4A	ダントツ粒剤	6 kg／10a	植溝処理 土壌混和	植付時	1 回	ネギ ●	ネギ ●					●登録：タネバエ
			6 kg／10a	株元散布	3日前まで	4回以内	ネギ ●	ネギ ●				●	※クロチアニジンを含む（ダントツ）総使用回数は4回以内 （定植時までの処理は1回以内）
	4A	ベストガード粒剤	6 kg／10a	植溝処理 土壌混和	定植時	1 回	ネギ ●	ネギ ●					●登録：クロバネキノコバエ類
			6 kg／10a	株元処理	前日まで	3回以内	ネギ ●	ネギ ●					
生育期	3A	アグロスリン乳剤 [㊞]	2,000倍	100～300 ℓ	7日前まで	5回以内	●	ネギ ●	●				●登録：アブラムシ類、シロイチモジヨトウ（1,000倍）
	21A	ハチハチ乳剤 [㊞]	1,000倍	100～300 ℓ	7日前まで	2回以内	●	ネギ ●	●	●			●登録：さび病、べと病、アブラムシ類、クロバネキノコバエ類
	30	グレーシア乳剤	2,000倍	100～300 ℓ	7日前まで	2回以内	●	●	●	●			●登録：クロバネキノコバエ類
	UN	プレオフロアブル	1,000倍	100～300 ℓ	3日前まで	4回以内	ネギ ●			●			
	6	アグリメック [㊞]	1,000倍	100～300 ℓ	3日前まで	3回以内	●	ネギ ●					
	9B	コルト顆粒水和剤	2,000倍	100～300 ℓ	3日前まで	3回以内	ネギ ●	ネギ ●					●登録：アブラムシ類
	28	ヨーバルフロアブル	2,500倍	100～300 ℓ	3日前まで	3回以内	●	●	●	●			●登録：クロバネキノコバエ類
	5	ディアナSC	2,500倍	100～300 ℓ	前日まで	2回以内	●	ネギ ●	●	●			
	30	プロフレアSC	2,000倍	100～300 ℓ	前日まで	3回以内		ネギ ●	●	●			

病害防除【殺菌剤】

作業	RAC コード	薬 剤 名	使 用 方 法				対 象 病 害 虫							注 意 事 項
			倍 率	散布量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数	べと病	さび病	軟腐病	白絹病	小菌核 腐敗病	葉枯病	黒斑病	
揃い 出芽 後	M5	ダコニール1000	500倍	0.5L／㎡ 土壌灌注	出芽揃い後 (出芽3日 後から10 日後まで)	1 回								●登録：苗立枯病（リゾクトニア菌） ※ペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約5L）当たり0.5L
生育期	1	トップジンM水和剤	250倍	苗床灌注	定植直前	1 回					●			※チェーンポット1冊（30×60cm、使用土壌約5L）当たり0.5～1L
	P2	オリゼメート粒剤	6 kg／10a	株元散布	30日前まで	2回以内			●					土寄せ時
	3 M3 UN	テーク水和剤	600倍	100～300 ℓ	14日前まで	3回以内	●	●				●	●	
	M5 40	プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	100～300 ℓ	14日前まで	3回以内	●					●		※TPNを含む（プロポーズ、ダコニール）総使用回数は4回以内 （土壌灌注は1回以内、散布は3回以内）
	M5	ダコニール1000	1,000倍	100～300 ℓ	14日前まで	3回以内	●	●			●	●	●	
	24 M1	カスミンボルドー	1,000倍	100～300 ℓ	14日前まで	2回以内			●					
	31 24	カセット水和剤	1,000倍	100～300 ℓ	14日前まで	2回以内			●					※オキソリニック酸を含む（カセット、ナレート、スターナ）総使用回 数は3回以内
	31 M1	ナレート水和剤	1,000倍	100～300 ℓ	14日前まで	3回以内	●		●					
	31	スターナ水和剤	2,000倍	100～300 ℓ	7日前まで	3回以内			●					
	2	ロブラール水和剤	500倍	1L／㎡ 株元灌注	14日前まで	3回以内				●	●			
			1,000倍	100～300 ℓ	14日前まで	3回以内					●		●	●登録：ボトリチス葉枯症
	49 40	オロンディスウルトラSC	2,000倍	100～300 ℓ	7日前まで	2回以内	●							
	M1	ヨネポン水和剤	500倍	100～300 ℓ	7日前まで	4回以内	●	●	●				●	
	7	アフエットフロアブル	1,000倍	1L／㎡ 株元灌注	14日前まで	2回以内				●				●登録：黒腐菌核病
			2,000倍	100～300 ℓ	前日まで	2回以内		●		●	●	●	●	※【SDHI剤】 耐性菌出現防止のため連用は避 ける。
	7	カナメフロアブル [㊞]	4,000倍	100～300 ℓ	前日まで	2回以内				●		●	●	●登録：黒腐菌核病（株元散布）
	11	アミスター20フロアブル	2,000倍	100～300 ℓ	3日前まで	4回以内	●	●				●	●	●登録：リゾクトニア葉鞘腐敗病 黄斑病
	11	メジャーフロアブル	2,000倍	100～300 ℓ	前日まで	3回以内	●			●	●	●	●	●登録：小菌核病 黒腐菌核病
	U18	バリダシン液剤5	500倍	100～300 ℓ	前日まで	2回以内			●	●				※白絹病は株元散布、軟腐病は散布
	M1	クプロシールド	1,000倍	100～300 ℓ	—	—	●		●					

除草剤使用基準

	薬 剤 名	RAC	10 a 当り薬量／散布量	使 用 時 期	使用方法	使用回数	適 用 雑 草	特 性
土 壌 処 理 剤	ゴーゴーサン乳剤	3	200～300mℓ／70～100 ℓ	定植後（雑草発生前） (定植10日後まで)	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・土壌が過湿の場合は使用しない。 ・キク科雑草およびツククサには効果が劣る。
	トレファノサイド乳剤	3	200～300mℓ／100 ℓ	定植後雑草発生前 (収穫30日前まで)	全面土壌散布	2回以内	一年生雑草	・トンネル・ハウス栽培ではガス化による薬害のおそれがあるので使 用しない。 ・ツククサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。
	クレマート乳剤	3	200～400mℓ／100～150 ℓ	定植活着後雑草発生前 (定植10日後まで)	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・ガス化しない
	ロロックス	5	100～150 g／70～150 ℓ	定植後（雑草発生前） (但し、収穫30日前まで)	畦間土壌散布	1 回	一年生雑草	・イネ科雑草多い場合、他剤との混和が望ましい。 ・砂質土壌では使用しない。
			75～150 g／100 ℓ	定植30日後以降中耕培土後 (雑草発生前)（但し、収 穫30日前まで)	雑草茎葉散布 又は全面散布		一年生広葉雑草	
茎 葉 処 理 剤	ナブ乳剤	1	150～200mℓ／100 ℓ	雑草生育期（イネ科雑草3 ～5葉期）(収穫30日前まで)	雑草茎葉散布 又は全面散布	1 回	一年生イネ科雑草	・遅効性で枯死するまで7～10日必要。イネ科作物に薬害飛散に注意。 ・スズメノカタビラには効果がない。
	バスタ液剤	10	300～500mℓ／100～150 ℓ	雑草生育期：耕起前・定植前 または畦間処理(収穫前日ま で)	雑草茎葉散布	2回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い
	ラウンドアップマックスロード	9	200～500mℓ／50～100 ℓ	雑草生育期：定植後畦間処理 (収穫30日前まで)	雑草茎葉散布	3回以内	一年生雑草	・非選択性 ・吸収移行型除草剤